

四条通（烏丸通～川端通間）の整備について

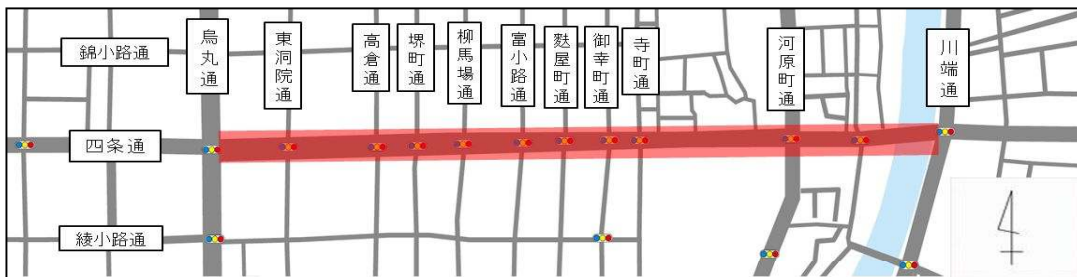
～ 人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通の実現 ～

京都市では、暮らす人も、訪れる人も「京都に住んでよかった」、「京都に来てよかった」と誰もが“歩・歩・笑み”を浮かべるまち京都であり続けるため、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまちづくり」を推進しています。

そのための重要事業である四条通（烏丸通～川端通までの区間）の整備については、公共交通が優先して走れる道路とするとともに、歩道を拡幅する計画を進めています。この度、平成24年1月に、学識経験者や市議員、関係行政機関などで構成された京都市都市計画審議会での承認を得て、四条通の整備を都市計画決定しましたので、その内容をお知らせします。今後、四条通の詳細な設計等を実施します。皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

都市計画決定（平成24年1月27日）の主な内容

- 区域：四条烏丸～四条川端 約1,120m
- 車線の数：2車線 ※現在の4車線から車線を減少させ歩道を拡幅します。
- 道路幅員：22m ※現在の車道幅は15m、歩道幅は7m（片側3.5m）



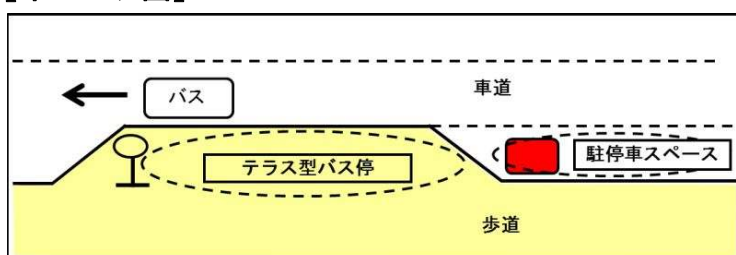
整備目的

- 歩道拡幅により、安心・安全な歩行空間を確保し、バスを待つ空間を拡大します。
- バスの乗降をやすく、バスと鉄道の乗継を便利にします。
- 公共交通の利便性を高め、都心の商業施設等へ行きやすくし、まちの賑わいの創出を図ります。

整備内容

- バス停：分散しているバス停を西行き、東行きとも四条河原町と四条高倉にまとめます。複数台が同時に停車できる長さで、歩道から張り出したテラス型とします。
- 駐停車スペース：タクシー利用者の乗降や荷物の積卸ができるスペースを設けます。
- 歩道拡幅：現在の片側3.5mの歩道を、5.25m（1.75m増）に拡幅することを基本とします。
※歩道幅は、バス停部や交差点付近など、必要に応じて増減します。

【イメージ図】



検討経過

「歩いて楽しいまちなか戦略」の推進（平成18年度～）

○平成18年度から、地元・商店街の皆様、関係事業者・機関、学識経験者の皆様とともに、「歩いて楽しいまちなか戦略」推進協議会等により、検討を進めてきました。

○平成19年度には、四条通や周辺細街路において、大規模な交通規制を伴う社会実験を行いました。

○平成22年度には、交通量調査や、バス停の集約、路外共同荷捌き場の設置、タクシー乗り場の使用制限などを内容とする社会実験を行いました。

○平成23年度には、9月に法定説明会、更に12月に学区ごとに地元説明会を開催し、平成24年1月に都市計画決定しました。



四条通の整備に係る今後の予定

平成24年度以降 詳細設計 → 工事着手 → 整備完了

よくある質問

Q1 四条通の課題は？

- ①バスがバス停に正着（隙間を空けずに停車すること）できず、乗降しにくい（右の写真参照）。また、バスの走行環境が悪い。
- ②歩道は、歩行者が多いうえに、バス待ち客も多く、歩きにくい。
- ③車道は、バスやタクシー、貨物車両の沿道利用が多い。などの課題があります。



Q2 平成19年の社会実験のような交通規制はするの？

今回の整備では、四条通や細街路への新たな交通規制が行われることを前提としていません。

Q3 減少する車線はどうなるの？

減少する車道部分は、全部が歩道になるわけではありません。テラス型のバス停やタクシーの乗降場、貨物車両の積卸スペース、左折レーン等を設置することになります。

Q4 四条通の交通の流れはどうなるの？

現在の四条通の交通量は、市内の平均的な2車線道路と同じです。これまでの調査結果から分析すると、整備後の四条通の交通の流れは大きく変わらないと考えています。

Q5 周辺の細街路の交通の流れはどうなるの？

四条通の交通の流れが大きく変わらないことから、周辺の細街路の交通の流れも大きく変わらないと考えています。

なお、現状でも、歩行者が安全に歩けるようにする必要があることから、路側帯の拡幅や自転車の左側通行の路面標示などの面的な対策を、順次、実施します。

Q6 テラス型バス停とは、どのようなもの？

歩道部分から更に車道側に張り出したバス停です（表面イメージ図参照）。これにより、バスがバス停に正着でき、乗降しやすくなるほか、バスを待つスペースも広がります。

問合せ先 京都市都市計画局歩くまち京都推進室（担当 弓削、早崎）
電話 075-222-3483 FAX 075-213-1064